

調査研究部報告書情報シート

記入年月日:2011年4月14日

情報No.	K-11-3	情報区分	プラ循環協研究報告	ファイリング場所	プラ循環協書棚
-------	--------	------	-----------	----------	---------

題名 報告書名	使用済みプラスチックの収集・運搬に関する報告書				
報告年月	2011年3月	ページ数	38	著者・出版元	プラ循環協

【キーワード】

処理方式		要素技術	
樹脂類別		化学物質名	
形状別		用途別	
法規制		国別	日本

調査研究内容	<p>■主旨 一般廃棄物として取り扱われる使用済みプラスチックやごみの収集・運搬条件と地域特性について調査を実施し、人口・世帯、人口密度・世帯密度、走行距離、収集回数、処理施設までの距離等のパラメータについてデータを整備した。また、これらのデータを用いて、地域特性と収集・運搬条件にみられる相関性を検討した。</p> <p>■内容 関東地区を中心に、人口規模10万人以上の自治体を大都市、5万人以上10万人未満を中都市、5万人未満を小都市と位置づけ、63自治体（大都市23、中都市26、小都市14）にアンケート調査を実施した。</p> <p>▶ 調査項目：①使用済みプラスチック資源の回収量 ②再商品化／再資源化の収集形態とルート ③使用済みプラスチック資源の収集・運搬委託料 ④可燃・不燃ごみ、ならびに使用済みプラスチックの収集業務の実データ</p>
調査結果	<p>■結果 有効回答20件（有効回答率32%）を得て、回答内容を精査したが、収集・運搬条件と地域特性を相関づけるような結論は得られなかった。一方で、自治体の収集・運搬に関する実態に基づく事例的データを得ることができ、今後の調査において参考に資するデータと考えた。</p> <p>▶ 収集・運搬条件の集計結果から窺える特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可燃ごみの場合、都市規模が大きくなると、作業時間、作業距離は短くなる傾向。また収集作業1回当たりの収集量は大都市ほど少ない。 ・不燃ごみの場合、都市規模が大きくなると、作業時間と運搬時間、作業距離と運搬距離が短くなる傾向。また収集作業1回あたりの収集量は大都市ほど少ない。 ・PETボトルの単独収集の場合、作業時間と作業距離、運搬距離は大都市よりも小都市の方が長い。 ・PETボトルの混載収集の場合、作業距離、運搬距離は都市規模が大きくなると短くなる傾向がみられ、運搬時間は大都市よりも中・小都市の方が短い。また収集作業1回当たりの収集量は大都市ほど少ない傾向がみられた。 ・発泡トレイ、その他プラスチックの場合、事例が少なく、傾向を把握するには至らなかった。
備考	<p>▶ 収集・運搬業務を事業者へ委託している自治体が多いため、データ取得そのものが困難となり、回答率が低いと考えられ、自治体の委託事業者を含めた調査実施計画を作成する必要性が示唆された。</p> <p>▶ 今回設定した人口・世帯、人口密度・世帯密度、走行距離、収集回数、処理施設までの距離といったパラメータとは別に、各自治体が何を基準、あるいは根拠に収集・運搬の形態を決めているのか、地域特性を踏まえて収集・運搬条件を決めているのかどうかを。設問次項に設定し、記述形式による意見を収集することも並行して実施する必要があると考えられた。</p> <p>▶ 今後、同種の情報を収集する場合、ステーション数、可燃ごみや不燃ごみの排出量、プラスチック以外の資源回収量、収集頻度などの項目についても考慮すべきである。</p>